

ひがしっ子

No.8 平成24年10月12日発行 文責 学校長 小笠原哲司

6年生、修学旅行を無事に終了

6年生の修学旅行が9月18日(水)から2泊3日で実施されました。

1日目は広島での平和学習。「原爆の子」の像の前でセレモニーを行った後、平和記念資料館を見学し、語り部の方から被爆体験の話をお聞きしました。全員が真剣に聞き入っていました。



2日目、兵庫県の「キッザニア甲子園」では、子どもたちがいろいろな職業を選んで模擬体験をしました。消防官・調理師・デザイナー・自動車整備士・カメラマン・宅配業者・医師など、様々な職業のコーナーに分かれ、講師の指導を受けながら、体験をしました。



最終日は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンで、大変な人混みの中、アトラクションやショーを楽しみました。

3日間を通して、6年生の子どもたちは落ち着いて集団行動ができ、話の聞き方や挨拶の仕方などもたいへん立派でした。天気にも恵まれ、とてもいい旅行になりました。

南校舎の屋上も避難場所に

南校舎の耐震化工事により、外部非常階段も新たに付け替えられ、屋上まで上がることができるようになりました。屋上にはフェンスも張られ、安全に避難することができます。階段の入り口は施錠されていますが、非常時は蹴破ることができる素材で作られており、休日や夜間で校舎が閉まっても、地域の皆さんが避難できるようになっています。



愛校作業、ありがとうございました

9月13日(金)の参観日に合わせて愛校作業のご案内をさせていただいたところ、30名近い保護者の方が参加してくださいました。夏休み中、子どもたちの出入りがないために雑草が茂った運動場で、暑い中、汗を流しながら草引きをしてくださいました。おかげで、子どもたちが気持ち良く遊べる運動場に戻りました。参加してくださいました皆さんに厚くお礼申し上げます。

給食費の集金について

10月分の給食費の集金は下のとおりです。引き落としができるようご準備をお願いいたします。

10月給食費振替日 10月22日(火)

うしお	19回	4,655円
1~3年	20回	4,900円
4・5年	19回	4,655円
6年	21回	5,145円

感謝を込めて ありがとう集会

今年も、地域ぐるみで子どもを育てる活動や、安全を見守る活動などをしてくださっている皆さんを学校にお迎えし、9月27日(金)に「ありがとう集会」を行いました。今年も、まず「ドレミファ集会」に参加していただき、子どもたちの歌声や演奏を聴いていただきました。その後、出席して下さった皆さんを紹介し、児童代表が花束を贈り、代表して島崎伸一さんから子どもたちへのメッセージをいただきました。

〔集会に来てくださった皆さん〕

島崎伸一さん・甲籐芳隆さん・山下文雄さん
中野和代さん・藤原久子さん・浜田寿子さん
大川邦子さん・北村聡幸さん



学校評価項目について

7月18日(木)に開催した「開かれた学校づくり推進委員会」では、本年度の学校評価項目について学校側から説明し、委員の皆さんから質問やご意見をいただきました。これらの項目について評価をするにあたり、今年も11月下旬に児童をはじめ保護者・地域の方々に「学校評価アンケート」のご協力をいただき、今後の学校運営に生かしてまいりたいと考えています。

平成25年度 学校評価項目

心の育成	「善行を褒め、改善されたことを認め、いけないことは毅然と指導する」を徹底する。また、児童のいじめや差別的な言動に関する事象については、全教職員が共通理解を図り、学校全体の問題として取り組む。
安全管理 危機管理 環境整備	地震等の緊急事態発生時の予防的な取り組みを推進する。学年ごとに防災教育カリキュラムに則った学習を行うとともに、想定を変えながらの避難訓練を実施する。また、学校施設の改善を進めるとともに、飲料水・簡易トイレ等の備蓄を進める。

体力向上	体育部を中心に、運動のできる環境整備を行う。また、体力テストの結果を踏まえ、活動量を高める運動方法を取り入れた授業の改善に努める。
学力向上 授業改善	個々の児童に思考の場があり、相互のかかわりや、主体的な活動が展開できる授業について研究を進める。また、授業、加力指導、家庭学習を通して、個々の学習量の向上を目指した取り組みを行い、学力調査等における「1評定」(努力を要する)の児童の減少をめざす。
研修体制	職員会や夏季研修など、効率的な研修体制を確立する。外部講師だけでなく、内部講師を活用し、学び合える職場体制を整える。教職員アンケートの項目「研修体制の確立」において90%の肯定評価をめざす。
基本的な生活習慣の確立	生徒指導部を中心に校内外での生活ルールの確立をめざした指導を継続し、落ち着いた生活習慣を確立する。
コミュニケーション能力の育成	特別活動部を中心に、縦割りでの人間関係を確立する活動を導入する。生徒指導部、人権教育部を中心に、「あいさつ」「言葉づかい」に重点をおいて指導を行い、周りの人とのかかわり方を身につけさせる。
不登校対応 特別支援教育	校内支援委員会を定期的に開催し、児童理解とともに具体的な対応策を提起していく。また、関係機関、スクールカウンセラー等とも連携を密にし、不登校児童や要支援児童と保護者に寄り添った支援を行う。
組織運営	校内運営委員会や研究推進委員会を活用し、各部の方向性や分掌を明確にするとともに、各部が先を見通して主体的に取り組む体制を目指す。教職員アンケート項目「組織連携」において肯定評価90%を目指す。
学校運営	学校評価以外にも、さまざまな機会に児童、保護者、地域の声を聞き、学校運営に生かすよう努める。また、学校経営診断の結果や、自己評価面談等における教職員の意見を学校運営に生かすよう努める。
保護者・地域連携	P T Aの会合や開かれた学校づくり推進委員会において、児童の現状、実態について問題提起を行い、学校・保護者・地域の連携を強化する。また、担任を中心に保護者との良好な人間関係を築くよう努める。
情報発信	学校通信、学年、学級通信等あらゆる機会に学校としての取り組み内容や、成果と課題について情報発信していく。保護者・地域関係者アンケート項目「情報発信」の肯定評価90%を目指す。

